

第13回専門委員会における聞き取り概要

1 日本鋳業協会

〈金属鋳業〉

(排出要因)

操業上での使用実態はなし。鋳害防止事業としてカドミウムを含む坑廃水処理を実施。

(対策)

処理方法は一般的に凝集沈殿法を採用している。薬剤添加量を上げる等操業改善により対応することが可能な事業場もあるが、pH管理等設備増強のための設備投資に期間を要する事業場もある。

また、電源確保が困難な事業場は、動力を必要としない処理方法（パッシブトリートメント）の開発・検討が必要であり、新基準達成の見込みが不明である。

〈非鉄金属一次・二次精錬業〉

(排出要因)

鋳石とリサイクル原料から年間2,000トンのカドミウムを生産。

(対策)

処理方法は凝集沈殿法を採用している。添加剤の増量等の操業改善によりカドミウム負荷を低減すると共に、反応槽、シックナーの増設等で排水処理能力の強化に期間を要する。

2 日本溶融亜鉛鍍金協会

〈溶融亜鉛めっき業〉

(排出要因)

使用する亜鉛地金の種類により、カドミウムが不純物として0.4%以下で含まれている。

(対策)

処理方法は一般的に凝集沈殿法を使用している。高度処理としてキレート処理を行う事業場も存在する。

排水中のカドミウム濃度の変化を把握する必要があり、排水系統や排水処理方法の変更に期間を要する。